

とっとり

考古学紀行

2015
春号

鳥取の考古学・文化財情報を「ギョウジ」と濃縮100%!!

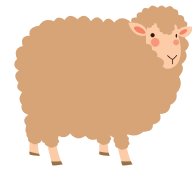
弥生時代の焼失住居跡
(下坂本清合遺跡)
赤色：焼土部分
黒色：炭の部分

特集

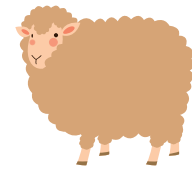
平成26年度に
発掘調査された遺跡

アイコンの
見方

場：場所(会場) 期：開催期間 休：休館日 時：実施時間 ￥：入館料、参加料 交：交通アクセス
P：駐車場 路線バス 自家用車 JR 主：主催 問：問合せ



発掘された羊たち?



～平成27年の干支・羊にまつわる出土品の紹介～

弥生時代の日本には、ヒツジはいませんでした。中国の歴史書『魏志倭人伝』にそのように記されていますし、日本の遺跡でヒツジの骨は見つかっていません。しかし、青谷上寺地遺跡から出土した箱型の琴の側板には渦巻き状の角を2重の円で表した動物が描かれていて、これは「ヒツジ」ではないかといわれています。

側板には中央の動物をはさんで動物が左右2匹ずつ向き合うように描かれています。左の2匹の頭のところをよく見てみると、右の2匹のように2重の円が刻まれています。つまりもともと4匹の同じ動物を左右対称に描いていたところに、左側の2匹だけ2重の円を削り取り、尖った耳を描き加えているのです。

耳の尖った動物はシカと考えられ、弥生時代の遺跡から発見される土器や青銅器に描かれることがあります。

青谷上寺地遺跡では椀形容器にも描かれていることから、弥生人にとって身近な動物だったことが想像されます。

ヒツジは、もしかしたら青谷にやってきた渡来人か、大陸に渡って見てきた弥生人が描いたものかもしれませんが、どうしてシカに彫り直されたのかははっきりしていません。



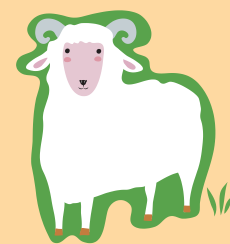
↑青谷上寺地遺跡出土の琴



彫り直された頸部

円の跡

青谷上寺地遺跡出土の琴の側板
(弥生中期)



パズルはどっち?

かべんたかつき
～花卉高杯の立体パズル～

このページの出土品に関しては「鳥取県の考古学第2巻 弥生時代I」に詳しく掲載しています。購入方法などは裏表紙の「販売図書の御案内」をご覧ください。



こちらは青谷上寺地遺跡から出土した木器「花卉高杯」(食べ物を盛ったと考えられている器)の復元品です。杯部の裏側に5弁の花弁が彫刻されている華麗な器として知られています。左の写真は、同じものが2つに見えますが、ひとつは本物そっくりにした「立体パズル」で、磁石でパズルパーツがぴったりとくっつく仕組みになっています。

ばらばらのパズルを組立てると、まるで出土品の修復をしているみたい!

埋蔵文化財センターのイベント「古代まつり」では珍しい形からこの「花卉高杯」の立体パズルは、特に小さなお子さんに人気でした。

中には1分以内にパズルを完成させた方も!

今後も埋蔵文化財センターのイベントで登場しますので、お楽しみに!



左はパズル!

右が復元品!